

市民公益活動について

□調査期間 平成28年2月10日～平成28年2月17日

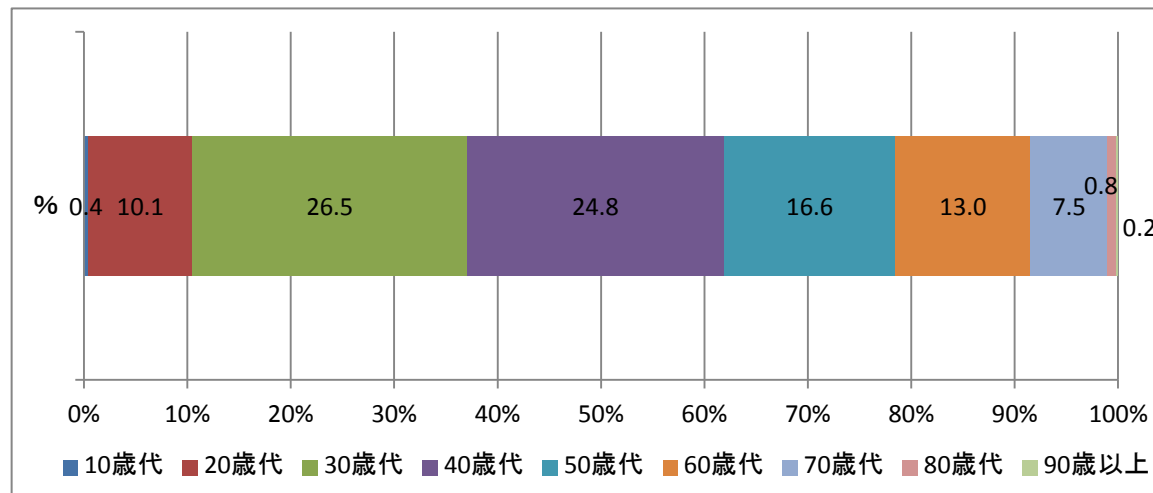
□調査の趣旨 市民公益活動について、皆様のご意見をお聞きます。

□対象者数 483 人(平成28年2月10日時点)

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

□対象者年齢

内訳	人数	%
10歳代	2	0.4
20歳代	49	10.1
30歳代	128	26.5
40歳代	120	24.8
50歳代	80	16.6
60歳代	63	13.0
70歳代	36	7.5
80歳代	4	0.8
90歳以上	1	0.2
合計	483	99.9



□回答者数 350 人

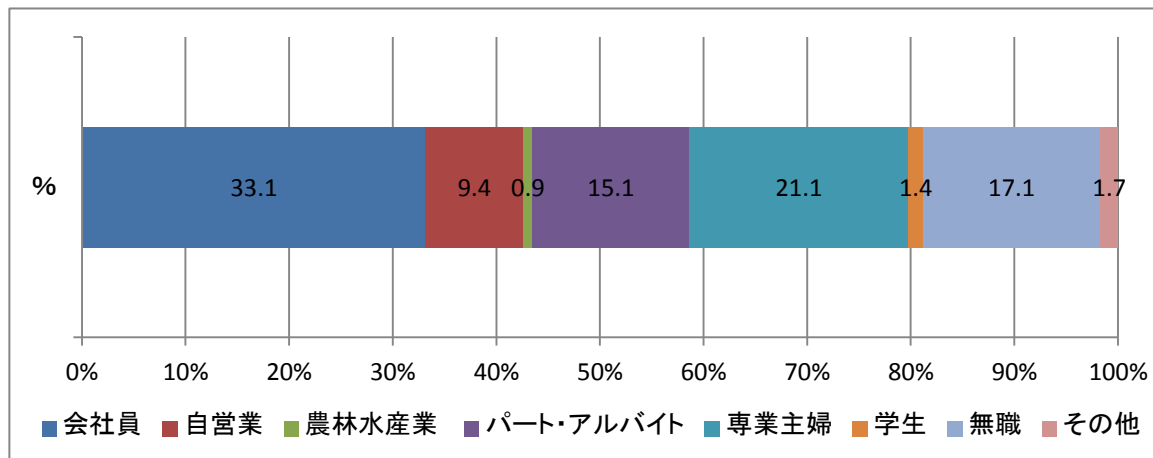
□回答率 72.5 % (平成28年2月17日時点)

【ご職業】

内訳	人数	%
会社員	116	33.1
自営業	33	9.4
農林水産業	3	0.9
パート・アルバイト	53	15.1
専業主婦	74	21.1
学生	5	1.4
無職	60	17.1
その他	6	1.7
合計	350	99.8

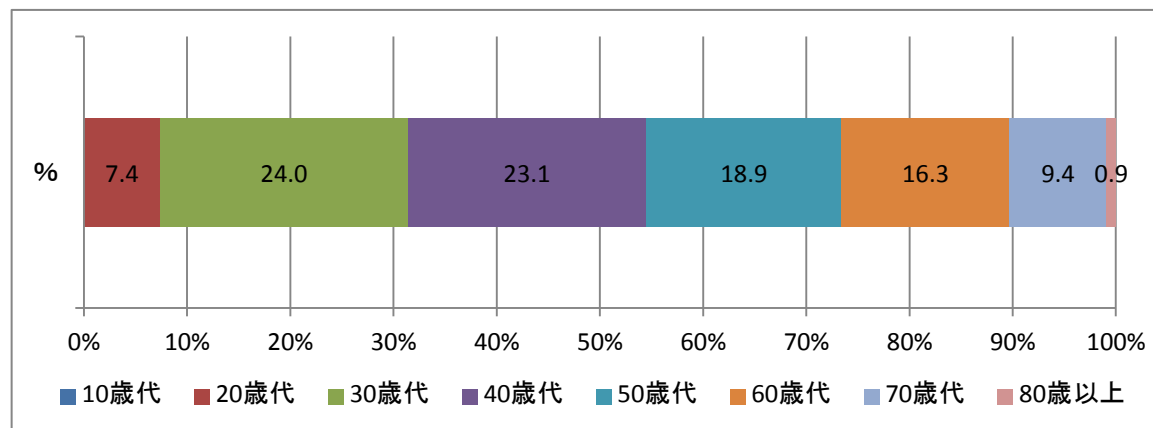
その他のご職業

- ・会社役員
- ・勤務医
- ・非常勤講師
- ・NPO団体
- ・団体
- ・非正規職員



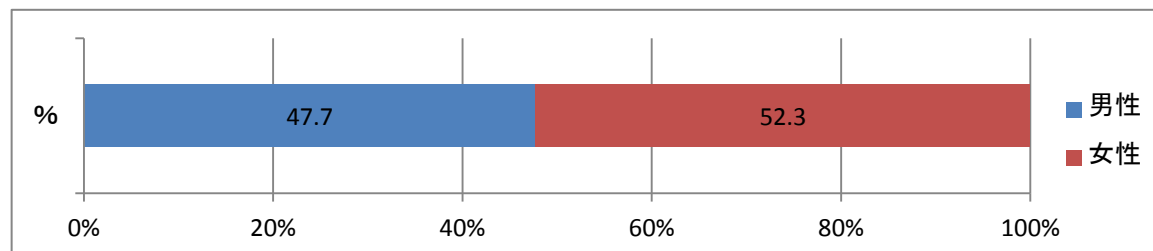
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	0	0.0
20歳代	26	7.4
30歳代	84	24.0
40歳代	81	23.1
50歳代	66	18.9
60歳代	57	16.3
70歳代	33	9.4
80歳以上	3	0.9
合計	350	100.0



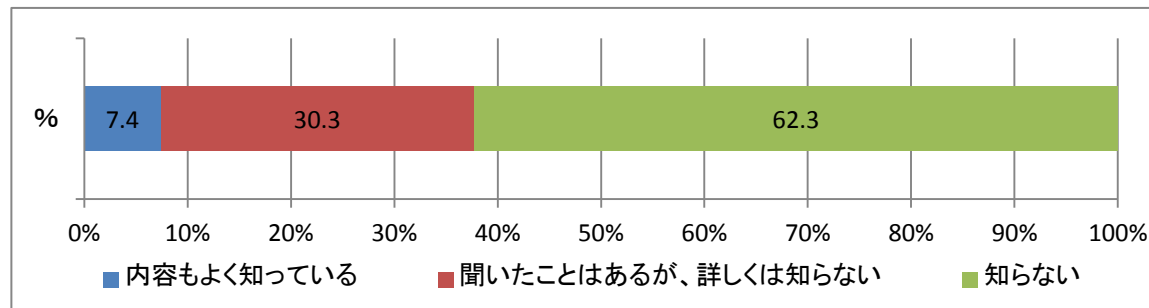
【性別】

内訳	人数	%
男性	167	47.7
女性	183	52.3
合計	350	100.0



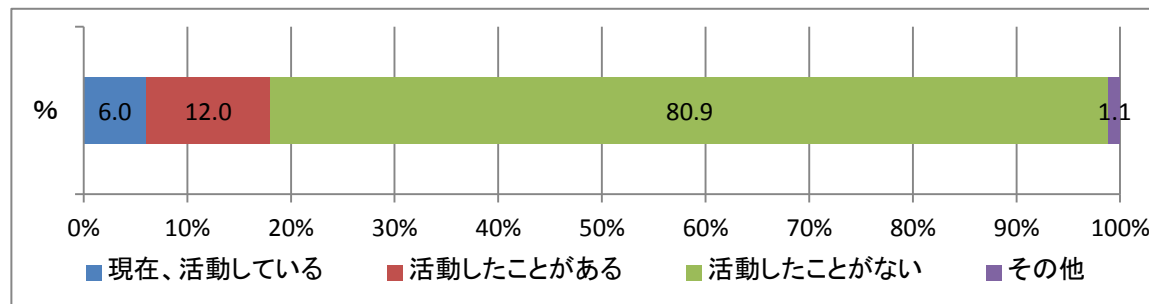
問1 あなたは、「市民公益活動」という言葉を知っていますか？

回答	人数	%
内容もよく知っている	26	7.4
聞いたことはあるが、詳しくは知らない	106	30.3
知らない	218	62.3
合計	350	100.0



問2 あなたは、「市民公益活動」を行った経験はありますか？

回答	人数	%
現在、活動している	21	6.0
活動したことがある	42	12.0
活動したことがない	283	80.9
その他	4	1.1
合計	350	100.0

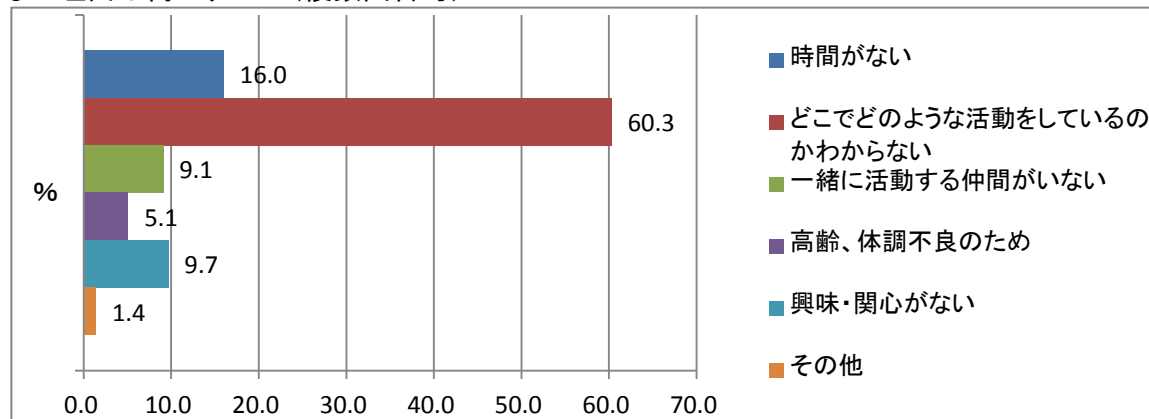


問2-1 「その他」と回答された方は詳しくご記入下さい。(必須回答)

- ・知らないからわからない。
- ・ボランティア活動はしたことがありますが、それがここで言う「市民公益活動」に当たるのかがわかりません。
- ・和歌山市内ではないが他市では参加している。

問2-2 問2で「活動したことがない」と回答された方にお聞きします。活動されない理由は何ですか？(複数回答可)

回答	人数	%
時間がない	56	16.0
どこでどのような活動をしているのかわからない	211	60.3
一緒に活動する仲間がいない	32	9.1
高齢、体調不良のため	18	5.1
興味・関心がない	34	9.7
その他	5	1.4

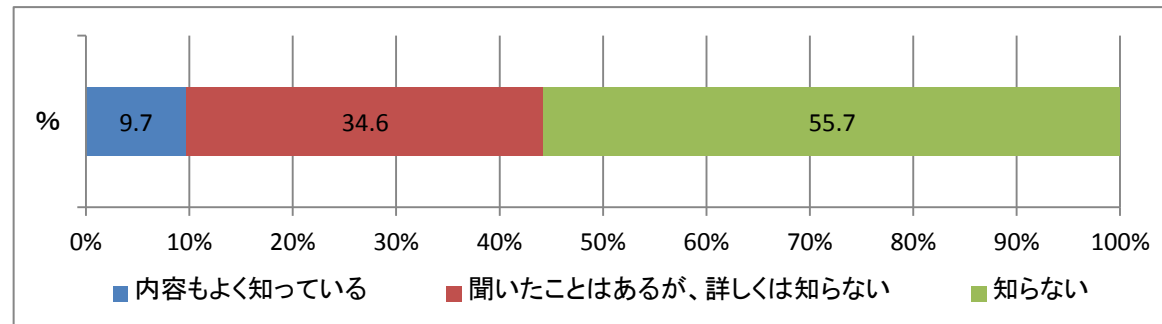


問2-2-1 「その他」と回答された方は詳しくご記入下さい。(必須回答)

- ・知らなかった。
- ・何をしてるかわからない。
- ・「市民公益活動」、聞いたことなかったです。
- ・介護で主人か私のどちらかが看なければならなくて、出掛けられない。主人は活動に参加しています。

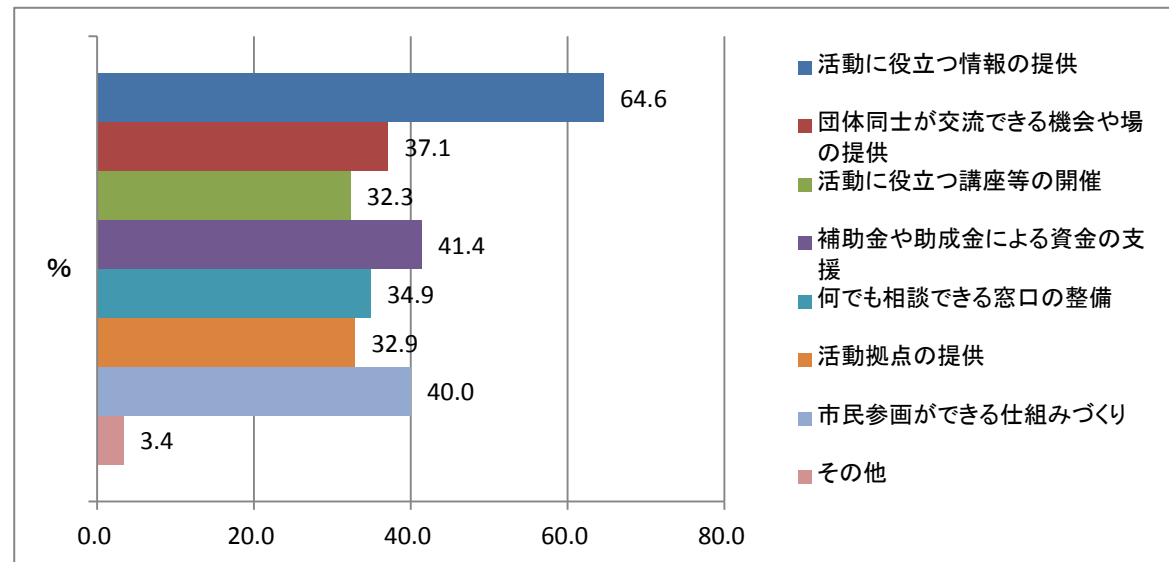
問3 あなたは、「協働」という言葉を知っていますか？

回答	人数	%
内容もよく知っている	34	9.7
聞いたことはあるが、詳しくは知らない	121	34.6
知らない	195	55.7
合計	350	100.0



問4 「協働のまちづくり」を進める上で、行政が市民公益活動団体支援のために行う施策として、ふさわしいと思うものは何ですか？(複数回答可)

回答	人数	%
活動に役立つ情報の提供	226	64.6
団体同士が交流できる機会や場の提供	130	37.1
活動に役立つ講座等の開催	113	32.3
補助金や助成金による資金の支援	145	41.4
何でも相談できる窓口の整備	122	34.9
活動拠点の提供	115	32.9
市民参画ができる仕組みづくり	140	40.0
その他	12	3.4



問4-1「その他」と回答された方は、どのような施策をお考えですか。ご記入下さい。(必須回答)

- ・興味なし。
- ・わからない。
- ・情報の発信と受信を。
- ・関係部署の職員が親切丁寧に協働すること。
- ・和歌山市が必要としている協働リストの公表。
- ・情報発信。こういうのをしてるみたいですが、皆さん一緒にどうですか？みたいな。
- ・協働も市民公益活動も具体的に何の事なのかかわからないので答えようがありません。
- ・市民公益活動のために、行政職員の意識改革を断行する必要がある。
- ・担当職員がNPO活動とは何かを深く理解し、もっと真摯に取り組む事を要請する。
- ・別に必要だとは思わない。自分の生きがいとか、社会参加意識のためにやってる人は否定しないけど。
- ・手厳しいですが、施策以前にまず、汚職、愛人と公費出張、車のトランクに隠れて出勤等々、市職員全員が襟を正すこと。一生懸命公務に全力で尽くす姿を見れば、必ず市議会議員や市民は全力で市行政をサポートすると思うよ。

問5 市民公益活動についてご意見等ございましたらご記入下さい。(任意回答)

- ・すばらしい活動を。
- ・熱心な人が必要。
- ・情報が無い。
- ・興味がない。
- ・言葉自体知らなかった。
- ・どんなものがあるのかも知らない。
- ・市民に広く知ってもらえる仕組みが必要。
- ・初耳でよくわからず、すみません。
- ・もっと具体的な活動事例など、周知活動が必要。(類似意見10件)
- ・参加できるよう考えてみたいと思いました。
- ・具体的にどのような内容が対象かが全くわかりません。
- ・行政が先頭に立って引っ張って行って下さい。
- ・これから誰でも参加し、活動することが出来るようになると思います。
- ・交流することが苦手なので、そういう人が参加できたら…。
- ・何でも(ごく些細な事でも)聞きたい事を教えてくれる窓口がほしい。
- ・生活インフラについても協働できる場が必要です。
- ・誰でも参加できるような仕組みを作ってもらいたいです。
- ・市民公益活動の言葉は初めて聞きました。具体的な活動内容や場所など広報をしてほしい。
- ・市民公益活動という名前も馴染みがなく、取り組みが身近に全く感じられないです。
- ・市民公益活動は何処でPRしてるのですか？噂で聞くだけで何の事かわかる人がいないでしょうね。
- ・今のところ、知っている人が限られている。補助金を単年で出すだけでなく、継続していくことが望まれます。
- ・市民協働推進課のスキルをアップして、多様な相談にのれるようにしてほしい。
- ・本来するべき和歌山市と議員のサボタージュを助長しないか心配。
- ・先に協働も市民公益活動も具体的に説明された方が良いと思いますが…。
- ・高齢化が進む中で、特に高齢者を対象にした生きがい、仲間づくりの活動が有益だと思います。
- ・市の幹部がNPO活動とは何かを深く理解し、もっと真摯に取り組む事を要請する。

- ・ファミリーサポートセンターの講習は楽しかったです。地域の子育て支援に加われたので頑張ります。
- ・行政にとって、タダもしくは廉価で購える労働力と見られてないなら幸いなんですけどね。
- ・民間のショッピングセンター等で知るきっかけあればいいですが、全く知らないことばかりでした。
- ・「公益」という部分が具体的に何なのかがよくわからない。一部の企業との癒着にしか見えない活動が多いと感じる。
- ・現在ボランティア活動をしているが、交通費と弁当程度は支給されるので、ボランティア側の負担が無く参加しやすい。
- ・関連するメールマガジンを紹介、登録し、関心のある分野や近隣での活動情報を得られるようにし、その上で参加を呼びかける。
- ・活動内容を知る機会がほとんどない。活動をしているのか休止中なのかわかりづらい団体もいくつかあるような気がする。
- ・市民公益活動について、負担にならない程度に手軽に参加できるような仕組みを作るといいと思います。
- ・何かできることはないかと思っている人はたくさんいるはず。きっかけと背中を押してくれる何か。体験イベントなんてどうでしょう？
- ・市が行っている事業はPRが足りないのではないかと。市報わかやまやホームページだけでなく、もっと一般的な広報を行うべきではと思いますが。
- ・市民公益活動という言葉だけでは、いまいち堅苦しくて難しい感じがするので、市民がわかりやすく参加しやすいような工夫が必要だと思いました。
- ・国体ボランティア、小学校での出前授業の講師等の経験がありますが、今、どのような人材が求められているのかがわかりません。
- ・市民に対しての活動を求める前に、行政はその必要性や情報の伝達がきちんと伝わっていると考えているのか。旗振りだけで、きちんとその活動の方向を確認していますか？
- ・「公共の場で何かしら活躍したい」という心は誰でも持っていますが、なかなかその気持ちを表す場がないのが実情です。
- ・NPOについては和歌山市にどれだけの団体があるのか把握していないので、このアンケートの機会に調べてみようと思いました。
- ・今現在、どのような活動をしているかわからない。公開する。市役所などから活動テーマなど、地域などの自治会、老人会などを対象に講習会を開く。
- ・自ら行おうと考える人は、ボランティア精神が旺盛な人だから、そういう気持ちを削がないように、行政は募集や場の提供等の情報発信に注力するのが良いと思います。
- ・行政が行う支援は、情報や場所の提供で十分だと思います。偏った資金の支援にならないよう。全く別問題ですが、子供の医療費のようにとても偏っているものがあります。
- ・ボランティアに近いものなのでしょうか？行政と市民が日頃より絆作りができ、災害時に高齢者、障害者の方への協力が無理なく自然にできる仕組みづくりにも参加させていただけたらと思います。
- ・「市民全員ができる事をできる人ができる時にする」ということが普通になればいいなあと思います。和歌山市はこれから再び栄えないといけない。みんなでそれができれば…と思う。
- ・和歌山城や公園の清掃を定期的実施されていますが、公益活動としては参加がしやすく良いと思います。対象箇所や頻度を増やすことで活動の認知度が向上するのではないのでしょうか。
- ・全てに言えることだが、一人で参画しても孤独感や疎外感を味わうことのない組織作りが必要だと思う。でないと、利益誘導の団体頼りになって上手く行かないだろう。
- ・仕事をしている者は、時間も情報も足りません。お役に立てることがあるなら、できる範囲で参加したい気持ちもあります。最近新聞を購読していない家庭も多いので、フェイスブックなどのSNSを使って情報発信していただくと、より多くの市民に見てもらえると思います。
- ・ボランティアサロン自体は良い仕組みだと思う。踊りの練習に使っている団体があるが、適切な利用とは思えない。公益性もないし、ボランティアでもない特定の人による場所の占有なので利用を制限すべき。茶道教室など受講料をとっているのではないかと思うイベントが定期的開催されている。公民館との違いがどこにあるのかわからない。
- ・行政の縦割りの逆縄張り争い、仕事を増やしたくない性根とスピード感のなさが、何事においても民間活動の邪魔をしている。ということが民間では常識だが、悲しいかな行政の中の人、辞めるまでわからない。退職して天下って来て初めてわかるような状態である。これを読んで人も全くピンとこないだろう。民間活動で働いたことのない限り無理だろう。哀れで残念だ。
- ・市民がボランティアで公益のために動くのは本当に素敵なことで、私もよく参加させてもらっています。この事に興味を持つ人ほど、人の為、社会の為と強く思う人が多く、自分の仕事の合間を縫ってパワフルに活動されている方々が多いと思います。そんな市民と共に「動く」という事を市役所の方々にはわかってもらいたいと思います。一つ一つの動作、投げやりな思い、ちょっとしたことが市民の気持ちを削ぎます。中には熱い思いを持っている役所の方が可哀想だと思います。市民に声を掛ける前に、まずは市役所職員の全員の根本的な意識改革に向けた教育が必要だと思います。
- ・無給であるが、それをしのぐやりがい(例えば自身の経験(子育てなど)を生かせることでの生きがい)のようなメリットがあるのか疑問に感じています。具体的な活動が広報等や市のホームページでわかれば、とっかかりのハードルは低いと思います。

・市民公益活動や、行政と市民の協働は、これからの社会に重要だと強く思います。しかし、情報化社会が浸透して社会が高度化し、かつ少子高齢化、人口が減少する中、市役所の中に市民協働推進課が存在するのはいかがなものか？もっと重要な行政課題を差し置いて枝葉末梢にうつつを抜かしていると私は感じます。協働や市民公益活動については、職員全員が意識すべきであり、市民協働推進課などがあると、担当職員は熱心だが他の部署の人は無関心ということになりかねません。また、市民との協働は市民全体のことですが、市民公益活動にあまりにも傾聴しすぎると、ほんのごく一部の僅かな数の人たちの主義主張が、市民全体の意向であるような錯覚に陥るリスクも合わせて指摘させていただきます。市民公益活動をより支援するものの、市民協働推進課は新年度には発展的に廃止しましょう。

・現役時代は電器メーカ技術者でした。電子技術関係でしたらお手伝いできると思います。

・勤務先で組織として公道の清掃活動等を行ったことはありますが、そういう行為も含まれるのでしょうか。個人で行うのはなかなかきっかけがなく、難しいです。市民参画ができる仕組みづくりはほしいですね。

・和菓子関連のNPOの活動に参加させてもらっています。しかし、どうも方向性がはっきりしないなあと。市内には新しく興した菓子舗がうまく経営を拡大している例があり(本社は泉南郡ですが)、そちらとは異なり伝統ある店舗をなんとか日本、いえ、世界にアピールできないものかと考えています。最近多忙で参加できていないこともあるのですが、単なる趣味集団に留まらず市民単位の活動で、一大プロジェクトになることを願っています。力になれるのであれば尽力を惜しみませんが、どうも我が市には悪しき習慣があるようにも感じられてなりません。具体的なことはまたの機会ににでもお話します。今回はこれにて失礼します。

☆お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。「市民公益活動」、「協働」共に言葉の認知度について、約2分の1以上の方が「知らない」と回答されており、アピール不足、もっと情報発信を、との多数のご意見をいただきました。市報わかやま、ホームページ、ラジオ広報に加え、メールマガジンやSNS活用等の情報発信のご提案も検討してまいりたいと思います。今後とも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。